

自己点検・自己評価項目

IXAS 日本語スクール

2026 年 6 月

5:達成している 4:ほぼ達成している 3:どちらともいえない 2:取り組みを検討中 1:改善が必要

1. 教育理念・目的等	評価
1 1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	5
2 1-2 学校の特色は何か	4
3 1-3 学校の将来構想を抱いているか	5
4 1-4 理念に基づく教育が行われているか	4

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

本校では、「次世代国際人材の育成」を教育理念として掲げ、日本語教育を中心に、生活指導や進路指導を通じて、日本社会で活躍できる人材の育成に取り組んでいます。

現在は、学生一人ひとりに寄り添った教育・生活支援を行うとともに、多様な国籍・文化的背景を持つ学生が安心して学べる教育環境の整備に努めています。また、進学・就職に向けた支援についても、学生の希望や適性に応じた指導を実施しています。

一方で、日本企業や地域社会との連携、実践的な学習機会の充実、ICTを活用した教育環境の整備などについては、今後さらに充実させていく必要があると認識しています。

今後5年間は、社会の変化や学生ニーズに対応できる教育体制の構築を目指し、教育内容の充実や学校運営の改善を段階的に進め、より質の高い教育機関となるよう取り組んでまいります。

2. 学校運営

	評価
5 2-1 運営方針は定められているか	5
6 2-2 事業計画は定められているか	5
7 2-3 運営組織や意思決定機能は確立され、効率的なものになっているか	3
8 2-4 人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されているか	3
9 2-5 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3
10 2-6 学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能が整備されているか	4
11 2-7 危機管理体制は整備されているか	4
12 2-8 施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できるよう学校教育法に基づき整備されているか	4

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

本校では、年度開始前に年間計画を作成し、それに基づき計画的な学校運営を行っています。

小規模校ならではの機動力を活かし、教職員間で情報共有を行いながら、それぞれが役割と責任を持って業務に取り組んでいます。また、必要な情報を適切に共有・活用し、業務の効率化と円滑な学校運営に努めています。

危機管理については、防災訓練や避難経路の確認等を実施し、学生および教職員の安全確保に取り組んでいます。

一方で、運営組織や意思決定機能、人事・職場環境、情報システムの活用については、今後さらに整備・改善していく必要があります。

今後 5 年間は、学校規模や学生数の変化に対応できる運営体制の強化、教職員間の連携向上、危機管理体制の見直しを段階的に進め、より安定した学校運営を目指してまいります。

3.教職員

評価

13	3-1 教育理念・目的が教職員間で共有されているか	2
14	3-2 教育の質を向上させるための取り組みが確立されているか	3
15	3-3 教職員評価を行っているか	3

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

・教職員の連絡ツールとして、連絡ノートや SNS を活用し、授業の引継ぎはもちろんのこと、学生の情報共有を推進している。またクラスごとには、毎日の業務報告書を通じて対面できない教員同士でも情報が共有できるよう取り組んでいる。しかし、文面では伝わらない部分も多く、対面で話す機会をできるだけ設けるよう、担任中心に情報共有できるよう努めている。

・今年は、春から常勤を 2 名増やし、契約社員という新しい就業形態もスタートさせた。なんとか、教員不足の解消に努めたいと思っているのだが、その思いとは裏腹に、続かない講師も多く、差し引き 0 になっているのが現状だ。

・新任講師には授業見学を定期的に行い、フィードバックを行っている。しかしながら、その成果があまり積み重なっていないと感じる。授業見学だけでなく、段階的に研修を設けるなど、教育の質を向上させる機会の必要性を感じる。

4. 教育活動

評価

16	4-1 カリキュラムは体系的に編成されているか	4
17	4-2 授業評価の実施・評価体制はあるか	3
18	4-3 目標に向け授業を行うことができる要件・資質を備えた教員を確保しているか	2
19	4-4 成績評価は適切に行われているか	3
20	4-5 各種日本語試験の認定率向上のための指導体制は整っているか	3

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

・コロナ禍の影響が抜けきらず、2年生が8クラスという幣校始まって以来の大人数となった。

・今年度も年度末に、授業アンケートを行った。授業に積極的に参加したかという学生個人に対する設問から、学校に対する自由記述、教員に対するコメントを求めている。授業評価に関しては学生の付度を感じるの、講師の評価に直接結びつけることはできないが、中には厳しいコメントを入力する学生もあり、真摯に受け止めている。

・相変わらず教員数が十分とは言い難い。募集は絶えず出しており門戸を広げている。授業は各クラスのバランスをとるためリレー形式にしており、結果、講師個人の資質、経験に頼ることが多くなっている。この状況がさらに酷くならないか危惧している。

・一年に二度、日本語能力試験の模擬試験を中間試験として実施している。成績付けにも関係する大切な試験と位置づけ、カンニング等の不正にも厳しく対応している。JLPTと同じく、マークシート式の試験を実施し、機械採点を採用している。暦の関係で、今年度は水曜日実施となったのだが、試験監督のマニュアルも充実してきたので、実施曜日が変わっても対応できるようになった。、試験実施自体も体系的に行えるようになってきた。

・日本語能力試験の試験対策は、各クラスの授業予定に組み込む形で行っている。本人の希望により受験級を決めている。また、7月の試験でN3を取った学生たちに対し前年度はN2 試験対策の取り出し授業を行ったが、今年度は喜ばしいことにN3合格者が多数おり、授業内に組み込むことができた。だが、思ったほどN2合格者の数を延ばすことができず、課題が残った。

第1回 JLPT	N1 受験者 1 名	合格者 1 名	N2 受験者 1 名	合格者 0 名
	N3 受験者 141 名	合格者 43 名	N4 受験者 15 名	合格者 3 名

第2回 JLPT	N1 受験者 0 名	合格者 0 名	N2 受験者 45 名	合格者 5 名
	N3 受験者 110 名	合格者 24 名	N4 受験者 97 名	合格者 37 名

5. 学生支援

評価

21	5-1 進学・就職指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4
22	5-2 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4
23	5-3 学生の心身の健康管理・事故・怪我サポートを行う体制があり、有効に機能しているか	4
24	5-4 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	3
25	5-5 保護者と適切に連携しているか	4
26	5-6 卒業生への支援体制はあるか	4

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

・今年度の進学指導は、担任単位をベースに、事務方に協力を仰いだ。早い段階から、進学指導を始めざるを得なかったが、無事に 157 名の卒業生を送り出すことができた。

(大学・短大進学 7 名、専門学校進学 147 名、VISA 切り替え 2 名、帰国 1 名)

VISA 切り替えの学生の内訳は、1 人はモーリシャスの学生で、もともとの受け入れ先に修飾のため、もう 1 人は中国の学生で在学中に N1 に合格し、就職活動の末、決まった学生である。帰国の学生は、ネパールの学生で体調不良が続いており、帰国して療養すること。

・健康診断は、年度初めに 1 回。週末に診断車を呼び、実施した。

・今年度からは、全員留学生保険に加入することとした。

・進学クラスを対象に、授業 3 コマを使って、卒業前ガイダンスを行った。引っ越しの手続きだったり、次回の VISA 更新の際に困るであろうことをまとめて話をした。

・結核が発生した。学生が呼吸困難に陥り、病院を受診した。9 月に保健所から結核感染の通知を受け、クラスメイト、ルームメイト、担当講師全員に検査を行った。結果、2 回目の検査で保菌している状態の学生が 4 名判明。この 4 名は、感染力なしとみなされ、保健所の指導のもと隔離なし、薬投与治療のみとなった。本人は、感染力が強く、3 か月ほど隔離入院した。今後は健康診断にレントゲンを必須項目とし、感染防止をはかる。

6. 在籍管理と生活指導

評価

27	6-1 入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われているか	5
28	6-2 日本社会を理解するための支援が適切に行われているか	4
29	6-3 我が国の法令を遵守させる指導を行っているか	5

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

本校では、入学時のオリエンテーションにおいて、在留資格に関する手続きや各種法令、日本での生活マナー、出席管理、アルバイトのルールなどについて説明し、日本で安心して生活・学習するための基礎知識の習得を支援しています。

また、日々の授業やホームルームを通じて、生活指導や自己管理能力の向上に努めるとともに、学生一人ひとりの状況に応じた継続的な支援を行っています。長期休暇前には、生活マナーや安全管理、アルバイトに関する注意事項について改めて指導を実施しています。

在籍管理については、定期的に住所や連絡先等の確認を行い、学生情報の適切な管理に努めています。また、欠席や生活面で気になる学生については、本人への聞き取りや必要に応じた保護者・関係機関との連携を行いながら対応しています。

今後5年間は、多様化する学生への対応力向上、在籍管理体制のさらなる充実、生活指導・相談支援体制の強化を段階的に進め、学生が安心して学び、成長できる教育環境の整備に努めてまいります。

7. 学生の募集と受け入れ

評価

31 7-1 学生の受入方針は定められているか	4
32 7-2 学生募集活動は、適正に行われているか	5
33 7-3 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
34 7-4 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	5
35 7-5 適正な定員設定及び在籍者数になっているか	5

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

本校では、年2回の学生募集を実施しており、主な募集対象国は中国、ネパール、スリランカです。また、教育の多様性を推進するため、新たな国・地域からの学生受け入れについても検討を進めています。

入学選考にあたっては、選考基準および方法を明確に定め、公正かつ適正な選考を行っています。主な選考基準は、日本語学習歴150時間以上または同等の日本語能力を有していること、12年以上の学校教育を修了していること、留学目的が明確であること、ならびに経費支弁者に十分な経済能力があることとしています。

また、提出書類に基づき、志願者本人の学歴、経歴、留学目的、経費支弁状況などを総合的に確認し、適正な受け入れに努めています。必要に応じて現地での面接や追加確認を実施し、信頼できる現地教育機関や仲介機関と連携しながら、入国から入学まで一貫したサポートを行っています。

今後も、適正な留学生の受け入れを最優先とし、募集体制の充実と新たな募集地域の開拓を進めるとともに、安心して学べる教育環境づくりに取り組んでまいります。

8. 財務

評価

36	8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3
37	8-2 予算・収支計画は有効且つ妥当なものとなっているか	4
38	8-3 財務について会計監査が適正に行われているか	4
39	8-4 財務情報公開の体制整備はできているか	4

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

本校では、教育の質を維持しながら、安定した学校運営に努めています。昨年度に引き続き、年間予算に基づいた計画的な財務管理を行うとともに、収支状況を確認しながら健全な学校経営に取り組んでいます。

現在の定員は 270 名であり、今後の留学生数の推移や教育環境の充実を見据え、中長期的な財務基盤の強化について継続的に検討を進めています。また、校舎や教育設備の整備についても、学校の発展段階に応じて計画的に進めていく方針です。

会計業務については、引き続き会計事務所と連携し、適正な会計処理および収支管理を行っています。今年度は、予算と実績の確認をより定期的に行い、財務状況を把握しながら、効率的な資金管理に努めています。

今後 5 年間は、中長期的な資金計画の充実、予算管理体制の強化、財務情報の透明性向上を段階的に進め、安定した学校運営を継続できる財務基盤の構築を目指してまいります。

9. 法令などの遵守

評価

40	9-1 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	5
41	9-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
42	9-3 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
43	9-4 自己点検・自己評価を公開しているか	5
44	9-5 関係省庁への定期報告を遅延なく実施しているか	5

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

入管法をはじめとする各種法令の遵守は、留学生を受け入れる教育機関として最も重要な責務の一つであると考えています。本校では、学生課を中心に教務課とも連携し、学生の受け入れから在籍管理、日常生活指導に至るまで、法令遵守を常に意識した運営を行っています。

学生に対しては、入学時のオリエンテーションにおいて、母国語による通訳を交えながら、在留資格、資格外活動、出席管理、生活マナーなどについて説明を行っています。また、日常の授業やホームルーム、長期休暇前の指導においても、法令遵守の重要性について継続的に指導しています。

法令改正や制度変更があった際には、教職員への情報共有を速やかに行い、職員間の打ち合わせを通じて、非常勤講師を含む全教職員へ周知・徹底しています。

個人情報の保護については、「特定個人情報等取扱規程」を整備し、システム上のデータおよび紙媒体の書類について、規程に基づいた適切な管理を行っています。今後も、法令遵守と個人情報保護を徹底し、学生が安心して学べる教育環境の維持・向上に努めてまいります。

10. 社会貢献

評価

45	10-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	2
46	10-2 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	2

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

今年も、安全教室として1年生を避難訓練に、2年生を防災センターに連れて行った。社会貢献までは難しくとも、生活の中で、周辺の皆様の迷惑にならない程度の社会的秩序、ルールの徹底を図っていきたい。

ボランティア活動をするにも、地域の情報が少なく、何をどうしたらいいかと思う学生も多いはずである。弊校は名古屋の外れという立地の問題もあり縁遠いのだが、まずは、名古屋国際センターの情報を積極的に集めたい。今のところは、学生の興味を引きそうなイベントをSNSにアップする程度しかしていないが、足を運ぶところから始めなければならない。

〈総括〉

先日、8回目の卒業式を無事に終えることができた。

5月に中部大学から5名の学生が授業見学にやってきた。3年生の学生を対象とし、来年度より非常勤として受け入れる。一般企業のインターンのようなイメージで、問題がなければ再来年度より常勤にスムーズに移行するという新しい試みである。どうにか人材を確保し、人材不足による業務の負荷を軽減したいと考える。

卒業生の増加による卒業式の会場確保が難しく、当初の予定より5日ほどずれ込んだ。会場都合は仕方ないのだが、最悪その影響によりイベントが行えなくなるのを避けるため、来期はより引き締めて会場確保に臨みたい。

進学が年々早まっている現状を踏まえ、今年度も1年生のころから進学説明会に連れて行ったり、早くから進学に対する意識を啓発している。人材不足により、今年度も2名の先生に、進学指導を2クラスお願いしなければならなかった。忙しくさせたが、その甲斐もあって、年明けには進学希望者は100%進学先を決定することができた。しかしながら、3月になって、学費納入の期日を勘違いして振込損なっていることが判明し、入学辞退をやむなくされた学生が出た。どこも入試が終わっていると断られる中、なんとか受け入れてくださるという指定校の学校があり、すぐに受験し直したものの、アパートが決まらず、4月中旬まで名古屋に待機させなければならず、本人はもちろん周りにも可哀そうなことをした。今回は受け入れてくださる学校が決まってよかったものの、今後このようなことが起きないように、再発防止に努めたい。

日本語教員が国家資格化して、2年。それに伴い、日本語学校も厳格化した。しっかりと教育の質を確保するとともに、よきところは保ちつつ、それに固執せず新しい試みに挑戦していけたらと思う。次年度はいよいよ再認定に向けて具体的に動き出す。学生ファーストで、積極的に取り組みたい。